

 総会報告

## ガーデンを考える会総会開催 記念セミナー、3氏の講演は大きな反響

NPO法人ガーデンを考える会(上野和治会長)は6月9日午後、東京浅草橋の共和会館会議室で平成29年度通常総会を開催、会員53社人中28社人が出席した。

上野会長の挨拶(後記)に続いて、来賓祝辞では千田純子環境省自然環境局総務課課長補佐より「つなげよう、支えよう森里川海」について、佐藤貴大文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域学校協働推進室室長補佐より「地域学校協働活動の推進」について説明を兼ねた挨拶があった。

総会は藤田茂副会長が司会に、中島吉之副会長が議長となって進められたが、議事録署名人、書記を選出したのち審議では、平成28年度事業報告・決算報告が担当理事より行われた。平成29年度事業計画案・収支予算案が原案通り承認された。29年度事業計画では、『飛び越えよう業界の壁、創造しよう新しい消費』を目的に、次世代に向けた園芸活動を提唱していくこととなった。29年の事業では、研修セミナーを東日本、西日本、北陸など全国で年5回行っていくことにしており、継続事業として、会報の発行、フタリエみらい花フェスタでの啓蒙普及、お台場での「おもてなしプロジェクト」、熊本震災支援など、年間を通して多彩な活動を行っていくことになった。



(上から)総会で挨拶する  
上野会長、千田氏、佐藤氏

### 記念セミナー3講師の講演は大きな反響

総会に続いて開催された記念セミナーは、足利フラワーパークリゾート社長の早川公一郎氏による「フラワーリズム`個性と強みを生かした誘客戦略」、マイファーム社長の西辻一真氏による「自産自消のある生活が世界の農業を変える?!/2020年の農業未来予想図」、日比谷花壇社長の宮島浩彰氏による『「官から民へ」政策で市民公園の運営が変わる今、花と緑の価値をどのように高めてゆくか』の3題が行われたが、いずれもグリーンビジネスに新風を吹き込み、売上げを大きく伸ばして元気で知られる3氏だけに申し込みが多く、総会出席人数を大幅に上回る50名以上が聴講し、いずれの講演も大きな反響を呼んだ。

### 上野会長挨拶(抜粋)

きょうは環境省から千田純子様、文部科学省から佐藤貴大様、公務お忙しい中ありがとうございます。今回、初めて文科省様にお来賓として来ていただきました。学校への震災支援も長く行いましたが、これも次の世代の子供たちに自分たちの熱い思いを伝えていく部分をどんどんやっている、いきたいという団体であることを少しでも国にわかって頂けたらという思いがあります。

実際に、日本の人口はどんどん減っていく。20年、30年たつて、2千万人、それ以上の人口減が起こる。今までは建て物をどんどん作っていく、建築という考え方だったのが、今は減る、減築という考え方に変わっていく。減築が変わっていくとそれがどういう形になっていくのか、どういうことが起こるのか。それを想像しながら、仕事を考えていかないと我々の生きる道はないのではないかなと



カエデ  
kaede

思います。減築が起こると全てなくなるわけではないし、すべてうまくいなくなるわけではなくて、一極に集中する。今の東京もそうだと思うが、一極集中型になっていくと思う。それと同時に起こることは限界集落が崩壊していく。こうした未知の、自分たちが経験したことのない世界に入っていく。この時に自分たちが植物を通して、どういう形で新しい考え方、新しい想像力で、次の世代につなげていくか。そこには自分たちの植物に対する思いや植物の力は非常に大きなものがあると思うし、植物の力で業界を大きくしていけるような発想をしていきたいな、と思います。



総会会場



パワーポイントを使った講演光景(宮島講師)



## NPO 法人ガーデンを考える会

### 震災支援活動への思い

会長 上野和治

東日本大震災発生時から小学校へ向けて、支援活動を年二回続けさせていただき、あっという間の6年間でした。そして引き続き熊本へ向けても同じ思いで継続中です。

日本は世界有数の火山国で、国土面積は世界の1%にも満たないですが、活火山数はアメリカ、ロシアに次いで多いと言われています。それ以外の自然災害も非常に多く、災害立国です。私たちはそういう国に住んでいるのです。常日頃から災害に対する覚悟をお互いしっかり持って暮らしていく必要があります。支援活動を考えるとき私はいつも明治の企業家“渋沢栄一”の言葉を思い出します。『残酷な人になるな。前に進めるのは楽観的な人のみ』残酷とは悲観的に物事を考えることを言います。悲観になると自己中心的になり、もうダメだ!と絶望してしまいます、そうすると回りの人の気持ちを考える余裕がなくなり、何もかもが吹っ飛んでしまうのです。楽観的な人は心に余裕が生まれ、『なんとかなる、なんとかしよう。』となるものです。そうすれば回りの人の気持ちが見えてきて、どんな時にでも前進できるものです。そういう意味からも、私たちの支援活動は常に何が起ころうとも残酷にならずに『植物の力』を信じて、これからも次世代の子供たちを楽観的思考で応援していきたいと考えます。皆様、今後とも支援活動へのご協力をよろしく願いたします。



## 「花と緑のおもてなしガーデン」作業報告

五輪プロジェクト委員長 藤崎幹士

「花と緑のおもてなしプロジェクト」への第4回目の参加となる、花壇への植え込み作業を、2017年6月17日(土)に行いました。

今回の花壇は、色とりどりの植物を多品種利用した「パッションカラー・ガーデン」というコンセプトで計画しました。ネットに這わせるマンデビラや、昨年同様に(株)伊藤商事様のフラワーポールに植え込んだアサギリソウをはじめ、華やかでかつ成長した時には高低の感じられる花壇になると思います。

植物は(株)レイハウス・豊明花き(株)・(株)フラワーオークションジャパン他の皆様からご提供頂き、不足分は購入しました。又肥料については(株)ハイポネックスジャパン様からご提供いただいております。

また、当日ご参加いただいたのは、(有)緑花技研・E & Gアカデミー・(株)フラワーオークションジャパン・セキスイデザインワークス(株)の方々総勢13名です。

梅雨の季節に入っている事から天候が心配されましたが、天候に恵まれたのと、参加者の頑張りで、予定より早い午後3時無事終了しました。これからの成長が楽しみです。8月26日には「見学ツアー」も開催予定ですので是非ご参加いただけますようお願いします。



## お知らせ

### 「樹木見学ツアー／夏花見学ツアー」

NPO法人ガーデンを考える会

樹木見学ツアー事務局 藤崎幹士

8月26日(土)シンボルプロムナード公園(東京都江東区)において13:30～15:00樹木見学ツアーを開催します。(有)緑花技研の藤田茂氏の解説で、新樹種の実物を見て触れ、設計や植物選択時の注意点を学びます。15:30～17:00はプロ向け夏花見学ツアーが臨海副都心花と緑のイベント実行委員会により行われ、花の少ない夏季に長期間開花する植物を見学。17:30からは懇親会を予定。

8月26日・27日はスポーツ&フラワーフェスタが開かれており、ビクトリーブーケやファミリー層に向けたイベントも併催、夏花見学ツアーは27日も開催します。



26日の「樹木見学ツアー／夏花見学ツアー」ご参加お申し込みは、社名・氏名・TEL・mailを明記して、「樹木見学」「夏花見学」「懇親会」各出欠を、FAX：03-5718-3290またはE-Mail：s-fujita@r-giken.co.jpまでご連絡ください。締め切り8月18日。



カエデ  
**kaede**

**NPO 法人ガーデンを考える会**

**7月イベントのお知らせ**

当会会員様と、愛知園芸商組合様とのフリートークを行いたいと考えております。愛知園芸商組合は、愛知県内の園芸を主体に販売をされている方々の組合です。話し合いの趣旨と致しましては、近未来の園芸をどのように継続活性化させるか。そのためにも具体的にはどのような行動をとり、商売に取り入れるべきか等を話し合う場所としたいと考えております。かしこまった形ではなく、自由に話し合いが出来、何かを生み出せる場となる事を願っております。



日程：7月18日 14時から16時まで  
場所：豊明花き 組合横会議室

◆メールのお問い合わせ先  
豊明花き 村雲 俊作  
murakumo@toyoake.or.jp



**業界ニュース**

**第6回球根サミット  
世界的ランドスケープデザイナーのジャクリーン氏を招き  
女性ガーデナーなど75名が参加して盛り上がる**

花き球根産業、ランドスケープ、ガーデンデザインに関わる関係者が集まり、日本の球根について広く考える「第6回球根サミット」が4月9日、全国都市緑化よこはまフェアが開かれる中、横浜開港記念会館で開催された。主催は球根サミット実行委員会、アイバルブ・ジャパン。

今回のサミットは「ランドスケープガーデンデザインにおける球根の活用と応用—ジャクリーンスタイルが成功のカギ!？」と題して行われ、球根商社をはじめ、関東、中部、関西を中心に全国から女性ガーデナーなど75名が参加した。

サミットはアイバルブ・ジャパンの金藤公夫氏が司会となって進められ、球根サミット実行委員会の豊島正人氏の挨拶、ジャクリーン氏は球根を多用したガーデンデザインを多数紹介しながら、特にコンビネーションプランティング(球根のミックス植え)の魅力を中心に講演した。

第2部トークディスカッションでは『球根の情報発信について』『コンビネーションプランティングについて』『子どもや地域に向けたアプローチについて』の3つのテーマで、参加者から活発な質問や提案が寄せられた。

